

令和6年度中学生チャレンジテストの結果から ～学力の向上が見られた学校の取組み事例～

同一集団（令和5年度1年生と令和6年度2年生）の中学生チャレンジテストの結果を経年で見たときに、学力が向上していた学校について取組みをお聞きし、その内容の一例を以下にまとめました。これらの取組みが一人ひとりの力を伸ばすことにつながったと考えます。各学校における取組みの参考にしてください。

府や市町村教育委員会の指定校として、授業改善をめざした校内研究体制が確立し、学年や教科を超えて「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを、年間を通じて話し合う土台ができています。

学校全体で授業改善

中学校区合同で校内研究をしています。小中学校の教員の連携が密になり、小学校の学習内容、学習形態、学習方法等が中学校に円滑に接続されています。

どの教科においても図書資料や1人1台端末を活用して、複数の資料等から情報をまとめ、分析したり、発表したりする活動を取り入れています。また、生徒がアウトプットする活動をどの単元でも意識的に取り入れて授業できるよう、校内研究を進めています。

中学校区一体の取組み

学校図書館の活用

全学年、多くの教科でパフォーマンス課題を設定した授業づくりを行っています。例えば、社会科の単元等で国や地域について習った知識や技能を活用し、1人1台端末等を使ってプレゼンテーション資料にまとめたことを、英語の授業でも活用して、発表する活動を行っています。

パフォーマンス課題の設定

すべての学年の各教科等の授業で、グループ学習を行っています。生徒同士の人間関係が確立され、分からない問題を安心して聞いたり、教え合いをしたりしています。

グループ学習

読解力を育成するために、新聞を活用しています。新聞を読んで、何が書かれているか、何を考えたかをまとめさせています。活動にあたっては、新聞社が作成しているワークシートも活用しています。

新聞の活用

定期テストを廃止して、単元テストに完全移行しています。単元ごとに即時に評価をフィードバックすることで、学習改善や指導改善に役立っています。

単元テスト

週1回、全学年で6時間目の後に学習する時間（40分程度）を設定しています（当該日は45分授業とし、その後、当該の学習時間を設定）。各学年で実施する教科を決め、習熟度別にクラスを編成し、行っています。この時間は、校内の当該の教科の教員が学年を超えて子どもたちに指導を行っています。

放課後学習の充実

知識・技能の定着に、AIドリルを活用しています。家庭学習や、授業の導入の帯学習として、すべての学年のさまざまな教科で活用しています。結果は、教員がデータ分析し、課題点を日々の授業に生かすようにしています。

AIドリルの活用

希望者に対して、週1回の放課後学習を実施しています（約1時間）。学習で用いるプリントは、教員が普段の授業等の課題をふまえて作成しています。

優れた授業実践事例から授業づくりのヒントを得て、一層の授業改善を図ることは大切です。大阪府では、教員が授業研究をする際の参考にすることができるよう、WEBサイトに1人1台端末や学校図書館等を活用した実践事例を多数紹介しています。ぜひ、授業づくりの参考にしてください。

1人1台端末を活用した
実践事例



学校図書館を活用した
実践事例

